12. 皮膚の疾患

文献

櫻庭陽、沢崎健太、武内秀之、ほか．血液透析患者の QOL 維持・向上を目指した鍼治療の導入とその効果–かゆみを対象とした鍼治療の実践– *腎臓* 2007; 30(2): 167-74. 医中誌 Web ID: 2008091867

1. 目的

透析患者が抱える掻痒感に対する鍼治療効果の評価

2. 研究デザイン

準ランダム化比較試験 (クロスオーバー) (quasi RCT-cross over)

3. セッティング

三重県内の T 病院、三重、日本

4. 参加者

透析療法を受けている患者 18 名 (男性 7 名、女性 11 名、平均年齢 64.9±9.8 歳)。

5. 介入

Arm 1: A 群 (10 名)。鍼治療 (12 週) → washout (4 週) → 無治療 (12 週)
パイオネックス 0.6mm (セイリン社製) を計 24 回 (鍼師による治療、セルフケア各 12 回) 貼付。貼付部位は経絡テストによる。掻痒感の強い患者は先行研究を参考とした治療穴とあるが経穴名、数について記載なし。

Arm 2: B 群 (8 名)。無治療 (12 週) → washout (4 週) → 鍼治療 (12 週)、鍼治療は Arm1 と同様。

6. 主なアウトカム評価項目

掻痒感についての VAS を各治療期間前後の計 4 回。健康関連 QOL (HRQOL: Health Related Quality of Life) 尺度 SF-8™日本語版スタンダードを各治療期間前後の計 4 回、鍼治療に関する独自アンケートを鍼治療終了時のみ 1 回実施。

7. 主な結果

Arm1 の VAS が鍼治療期間前後で有意に減少 ($P<0.01$)。SF-8™は、両群とも治療中スコアが増加、無治療中は一定の傾向は示さなかった。独自アンケートでは、掻痒感、こり感、めまい、イライラ感、だるさなどの軽減を感じた患者が多かった。また、治療形式としては治療者とセルフケアの併用を希望する患者が最多であった (9 名)。平均使用鍼数は 26.8 本/週 (13.4 本/回) であった。

8. 結論

セルフケアも含めた円皮鍼を用いた透析患者に対する鍼治療は、掻痒感をはじめとする患者の愁訴に対して有効である。

9. 鍼灸学的言及

記載なし

10. 論文中の安全性評価

8 例でインシデントが発生した。症状の悪化 (かゆみ 2 例、腰痛 1 例)、倦怠感の出現 (2 例)、鍼刺激の残留感 (1 例)、鍼貼付部の瘡蓋 (1 例)、皮下出血 (1 例) であった。

11. Abstractor のコメント

定期的かつ長時間の透析は、患者にとって心身両面での負担となる。そのような透析患者に対し QOL が少しでも改善する方法を探ることは重要である。本研究では、痒みを対象とし、透析日以外は自宅でも行えるセルフケアを含めた鍼治療について評価しているため特に意義深い。一方、本研究では、治療穴の選択には経絡テスト※を用いているが、経絡テストと痒みとの関係が明確にされていない。また、患者の痒みの出現部位、頻度、症状、期間など詳細についての報告がない。透析患者に限らず、特に疾患を持った患者の場合は、個々の身体状態を考慮し層別化するなど介入方法を工夫する必要があると考えられる。インシデントは 8 例報告されているが、貼付時間短縮等の工夫により脱落者を出すことなく終了させている。透析患者の愁訴に対する臨床研究としては有意義であり、引き続き研究が期待される。

※経絡テストは、M-test とも呼ばれ、向野義人氏が考案したものである (向野義人．経絡テストによる診断と鍼治療．東京: 医歯薬出版，2002; 1-102.)。動きに伴って誘発される痛みや愁訴に対し、その動きの際に伸展される部位に分布する経絡を治療対象とする方法である。

12. Abstractor

下市善紀　2011.9.11